■特別研究部門――研究懇談会
■タイトル　：なぜ社会は専門家の声を聞かないのか、
専門家は社会の声を聞かないのか
：人為的要因による災害の防止に向けた技術･社会のあり方

■資　　料　：　あり
■日　　時　：　**９月７日（火）13:30～17:00**
■会　　場　：　**＊＊＊＊**

■司会　　浜田英明（法政大学）
■副司会　棒田　恵（新潟大学）
■記録　　本多健一（構造計画研究所）

■1. 主旨説明　　富樫　豊（地域における知識の結い）
■2. 主題解説
❶人間と技術の基層　　熊澤栄二(石川工業高等専門学校)
❷人的災害の回避と SDGs　　外岡　豊（埼玉大学名誉教授）
❸社会資本形成に係る問題点　　木俣信行(持続可能社会研究会)
❹リスク格差を助長する人為的社会構造
岡田成幸（北海道大学）
❺地震･豪雨災害による人為的要因　　橋本隆雄（国士舘大学）
❻被害想定は誰のために！　　宮島昌克（金沢大学）
❼モノづくりの現場から見えるもの　　佐久間博（アトリエ佐久間）
■3. 討論
■4. まとめ　　神田　順（東京大学名誉教授）

災害の誘発や激甚化の背後に人為的要因があると考え、17 年に標記委員会を立ち上げ、2ヶ年で防災に向けた技術と社会のあり方を探った。

その後、激しさを増す風水害の多発、復旧復興を含めた後手対応と、災害はより深刻さを増し、さらに人口減も到来し、人間(専門家･市民)と社会の関係が未成熟であることが問題を深刻化させていると認められた。

そこで、20 年に第二次研究委員会を立ち上げ、検討の枠組みを人間と社会の視点まで拡張し、哲学まで視点に加えて技術と社会のあり方を問うことにした。

社会については、経済･効率優先が生産分業･専門分化に留まらず、コスト優先による安全軽視、建築の道具化による社会性の喪失、責任所在の不明確化、さらには格差･貧困等の問題を引き起こして、社会と人間の関係性が崩れかかっている。

災害については、社会システムを含む人間側の問題が事態を大きくしており、防災のためには、技術各論を超えて、社会と人間の関係の健全化が必要とした。

論究に際しては、第一に哲学的視点で技術･社会と人間との関係を問題とし、第二に社会の仕組みとして経済至上社会、社会における(建築の)所有と責任、地位や資産による災害リスクの格差を問題とし、第三に地震災害や風水害における対処規範や業界分業を問題とし、第四に自然災害の激甚化と乖離したままの市民の思考･行動を問題として、計 7 主題を設定した。

主題解説では、人為的要因の視点で実状･実態を分析し、解決に向けて論究した。会場では皆さんとの討議を経て解決の礎を築きたい。